

# 業 務 報 告

## 2016年岡山県における感染症の患者発生状況について

(岡山県感染症情報センター業務報告 2016.1～2016.12)

### 1 感染症発生動向調査

#### 1.1 調査方法

感染症発生動向調査事業実施要綱(平成11年3月19日付け健医発第458号。以下「要綱」という。)に基づき、各関係機関から報告された患者情報を感染症サーベイランスシステムにより、国立感染症研究所感染症疫学センターへ報告するとともに、岡山県内の発生状況を解析した。

#### 1.2 調査期間

全数把握感染症(表1-1)及び月報告の定点把握感染症(表1-2-②)の調査期間は、2016年1月1日～12月31日、週報告の定点把握感染症(表1-2-①)については、2016年第1週～第52週(2016年1月4日～2017年1月1日)とした。なお、インフルエンザについては、流行時期にあわせて、第36週～翌年第35週(2015年8月31日～2016年9月4日)とした。また、いずれの感染症も診断日を基準とした。

### 2 届出対象感染症

対象となる感染症は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(平成10年法律第104号。以下「感染症法」という。)により定められており、一類～五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症に分類されている。一類～四類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症は全数把握対象に、五類感染症は、全数把握対象と定点把握対象に区分されている(表1参照)。なお、2016年2月15日に感染症法施行令及び施行規則の改正により、「ジカウイルス感染症」が全数把握対象の四類感染症に追加となった。

#### 2.1 全数把握感染症

全数把握感染症とは、発生数が希少、あるいは周囲への感染拡大防止を図るため、発生した全ての患者を把握することが必要な感染症で、医師は該当する患者を診断したときには、最寄りの保健所へ届出なくてはならない。

#### 2.2 定点把握感染症

定点把握感染症とは、発生動向の把握が必要な感染症のうち、患者数が多数で、その全てを把握する必要がないもので、指定された医療機関(定点)から発生状況が

週単位又は月単位で届出されることになっている。なお、定点医療機関は、要綱の基準に基づき選定されており、岡山県の場合、定点医療機関数は、小児科定点54、内科定点30、眼科定点12、性感染症定点17、基幹定点5が設定され、小児科定点と内科定点をあわせて、インフルエンザ定点84となっている。

定点把握感染症については、すべての定点医療機関から報告される患者数を定点医療機関数で割った値(以下「定点あたり報告数」という。)、又は年間の患者報告数を定点医療機関数で割った値(以下「定点あたり累積報告数」という。)を用いて、全国や過去のデータとの比較を行った。

### 3 結果

#### 3.1 全数把握感染症の発生状況(表2, 3参照)

##### 3.1.1 一類感染症

一類感染症の届出はなかった。

##### 3.1.2 二類感染症

二類感染症は、結核の届出があり、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。)、中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。)、鳥インフルエンザ(H5N1)、鳥インフルエンザ(H7N9)の届出はなかった。

##### i) 結核

結核は311例の届出があり、過去5年間と比較して最も少なかった(図1)。病型は、患者213例、無症状病原体保有者96例、疑似症患者1例、死亡者1例で、無症状病原体保有者96例のうち28例が医療・介護従事者(医師、看護婦、介護士など)であった。性別は男性144例、女性167例で、年齢階級別では、60歳以上の高齢者が半数以上を占めていた(図2)。特に20歳代の女性が多くなっており、その半数は医療・介護従事者であった。

##### 3.1.3 三類感染症

三類感染症は、腸管出血性大腸菌群感染症の届出があ

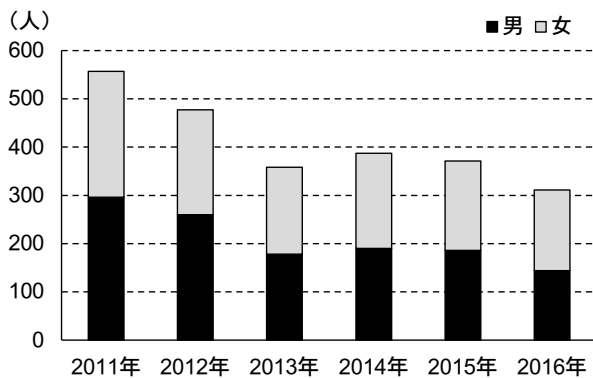


図1 結核 年次別発生状況

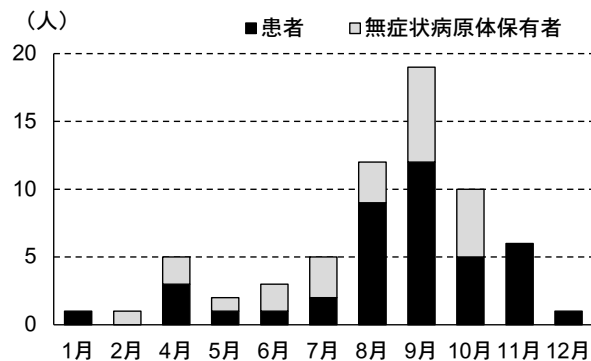


図4 腸管出血性大腸菌感染症 月別発生状況

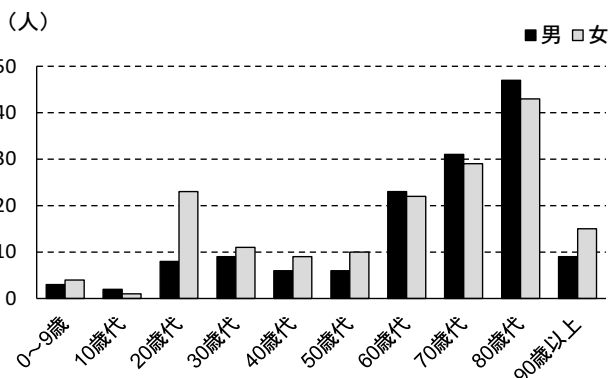


図2 結核 年齢階級別発生状況

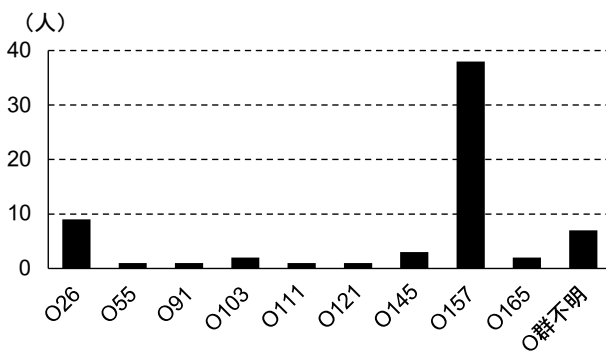


図5 腸管出血性大腸菌感染症 O血清群発生状況

り、細菌性赤痢、コレラ、腸チフス、パラチフスの届出はなかった。

i) 腸管出血性大腸菌群感染症

腸管出血性大腸菌感染症は65例の届出があり、前年（63例）とほぼ同数であった（図3）。病型は、患者41例（うち溶血性尿毒症候群2例）、無症状病原体保有者24例であった。性別は男性19例、女性46例で、乳幼児から高齢者まで幅広い年齢層で発生が見られた。月別発生状況は9月の19例が最も多く、8月12例、10月10例の順となっており、夏～秋にかけて多くの届出があった（図4）。血清群別の内訳は、図5のとおりであった。

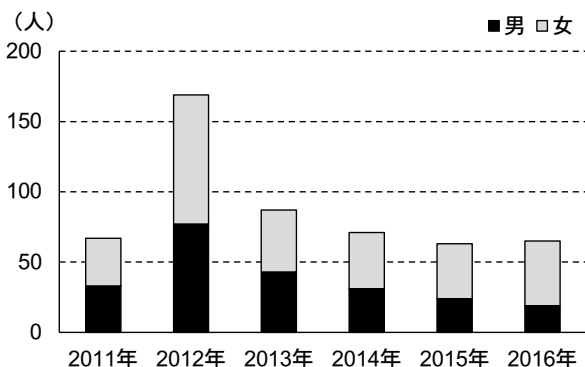


図3 腸管出血性大腸菌感染症 年次別発生状況

3.1.4 四類感染症

四類感染症は、E型肝炎、A型肝炎、重症熱性血小板減少症候群、つつが虫病、デング熱、日本紅斑熱、日本脳炎、レジオネラ症の届出があり、その他の四類感染症の届出はなかった。

i) E型肝炎

E型肝炎は2例の届出があり、60歳代と80歳代の男性であった。推定感染地域は、すべて国内（県内1例、都道府県不明1例）で、推定感染経路は経口感染1例、不明1例であった。

ii) A型肝炎

A型肝炎は3例の届出があった。性別は男性2例、女性1例で、年齢階級別では10歳代・30歳代・60歳代（各1例）であった。推定感染地域は、すべて国内（県内2例、都道府県不明1例）で、推定感染経路は経口感染2例、不明1例であった。

iii) 重症熱性血小板減少症候群

重症熱性血小板減少症候群は5月に1例の届出があり、2013年2例、2014年2例の発生に続いて5例目となった。患者は80歳代の女性で、推定感染地域は県内であった。

iv) つつが虫病

つつが虫病は2例の届出があり、月別発生状況は5月と12月であった。患者は60歳代男性と80歳代女性で、推定

感染地域は、すべて国内（県内）であった。

v) デング熱

デング熱は9月に1例の届出があり、50歳代の男性であった。推定感染地域は、国外（フィリピン）であった。

vi) 日本紅斑熱

日本紅斑熱は5例の届出があり、2009年10月に県内で初めての発生があつてから、累計報告数は19例となった。月別発生状況は7月1例、9月2例、10月2例であった。性別は男性2例、女性3例で、年齢階級別では50～80歳代であった。

vii) 日本脳炎

日本脳炎は1例の届出があり、2013年以来3年ぶりの患者発生であった。患者は60歳代の女性で、ワクチン接種歴はなく、推定感染地域は県内であった。

viii) レジオネラ症

レジオネラ症は27例の届出があり、前年と同数であった（図6）。病型は肺炎型26例、ポンティアック熱型1例であった。性別は男性20例、女性7例で、年齢階級別では70歳代（9例）が最も多く、次いで80歳代（7例）、60歳代（6例）の順であった（図7）。推定感染経路（重複あり）は、水系感染2例、塵埃感染2例、不明24例であった。

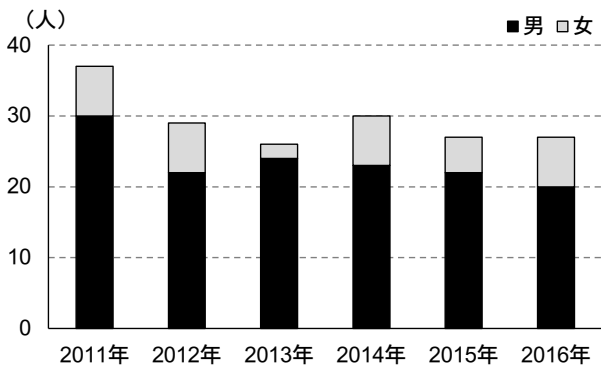


図6 レジオネラ症 年次別発生状況

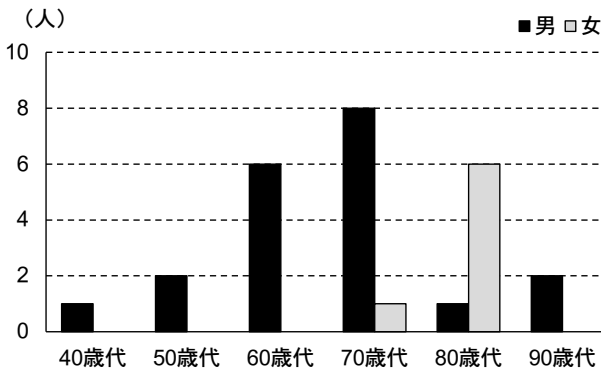


図7 レジオネラ症 年齢階級別発生状況

3.1.5 五類感染症（全数把握対象）

五類感染症では、15の感染症で届出があり、クリプトスポリジウム症、侵襲性髄膜炎菌感染症、先天性風しん症候群、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、風しん、麻しん、薬剤耐性アシネトバクター感染症の届出はなかった。

i) アメーバ赤痢

アメーバ赤痢は18例の届出があり、前年（17例）とほぼ同数であった（図8）。病型は、腸管アメーバ症15例、腸管外アメーバ症3例であった。性別は男性15例、女性3例で、年齢階級別では60歳代（6例）、50歳代（5例）、40歳代（3例）の順となっており、患者はすべて30歳以上の成人であった（図9）。推定感染地域はすべて国内で、県内5例、都道府県不明13例で、推定感染経路は性的接触6例、不明12例であった。

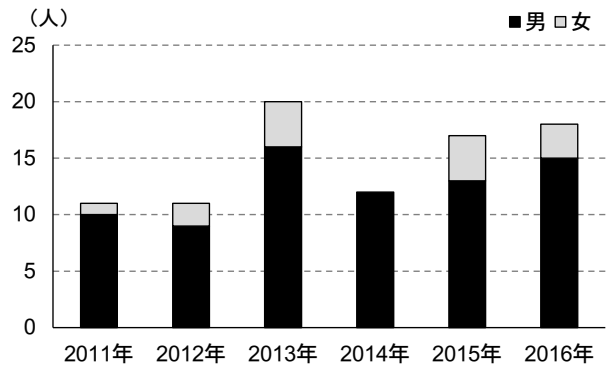


図8 アメーバ赤痢 年次別発生状況

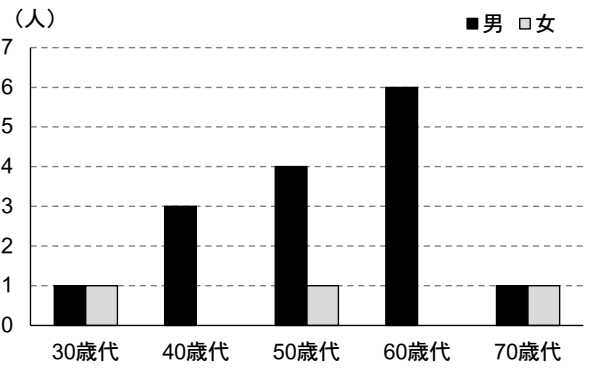


図9 アメーバ赤痢 年齢階級別発生状況

ii) ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く）

ウイルス性肝炎は4例の届出があり、病型はすべてB型であった。性別は、すべて男性で、年齢階級別では30歳代1例、50歳代2例、60歳代1例であった。推定感染地域は国内3例（県内2例、県外1例）、国外（フィリピン）1例で、推定感染経路は、性的接触3例、不明1例であった。

iii) カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症は28例の届出

があった(図10)。性別は男性19例、女性9例で、年齢階級別では、70歳代(15例)、60歳代・70歳代(各5例)、90歳以上(2例)の順となっており、患者のほとんどが60歳以上の高齢者であった(図11)。

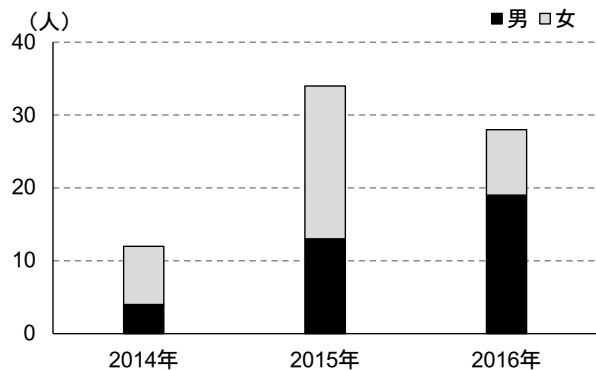


図10 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 年次別発生状況 (2014年から全数把握感染症に追加)

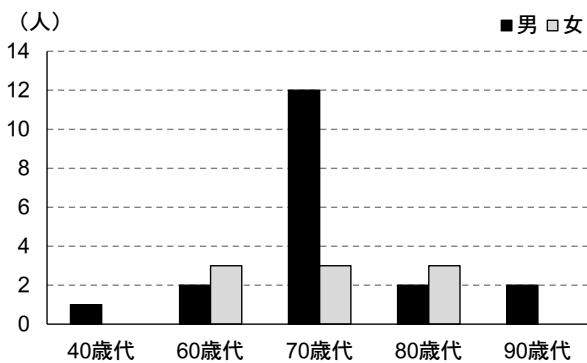


図11 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 年齢階級別発生状況

iv) 急性脳炎

急性脳炎は11例の届出があった(図12)。そのうち病原体が検出されたのは、インフルエンザウイルスA、インフルエンザウイルスB、ヒトヘルペスウイルス、水痘・帯状疱疹ウイルスが各1例で、7例は病原体不明であった。男女別では男性8例、女性3例で、年齢階級別では0～9歳・60歳代(各4例)、10歳代・40歳代・80歳代(各1例)であった(図13)。

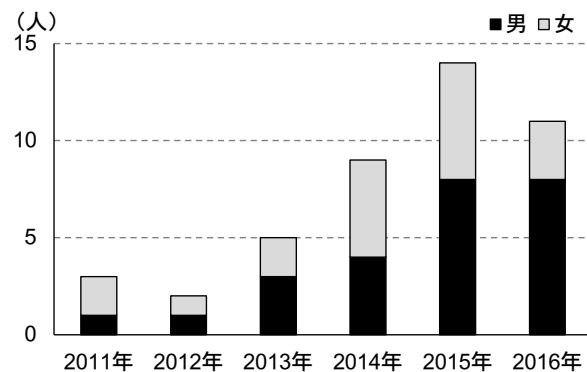


図12 急性脳炎 年次別発生状況

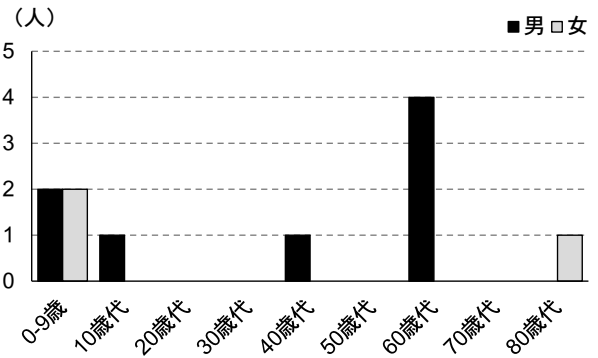


図13 急性脳炎 年齢階級別発生状況

v) クロイツフェルト・ヤコブ病

クロイツフェルト・ヤコブ病は3例の届出があった。性別は男性1例、女性2例で、年齢階級別では70～80歳代の高齢者であった。

vi) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は7例の届出があり、過去5年間と比較して最も多かった。性別は男性5例、女性2例で、年齢階級別では80歳代(2例)、70歳代(2例)、40歳代・50歳代・60歳代(各1例)であった。

vii) 後天性免疫不全症候群

後天性免疫不全症候群は12例の届出があり、前年(21例)より減少した(図14)。性別は、すべて男性で、20～60歳代で発生があり、特に20歳代が多かった(図15)。病型

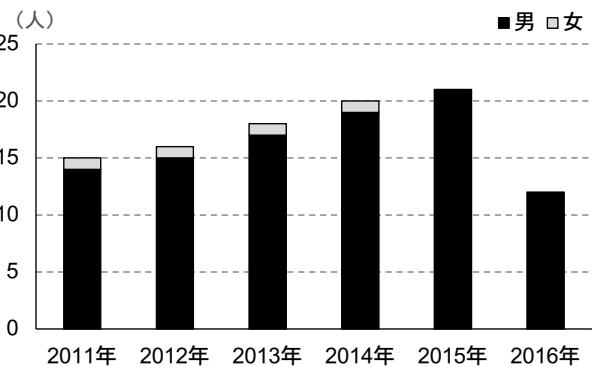


図14 後天性免疫不全症候群 年次別発生状況

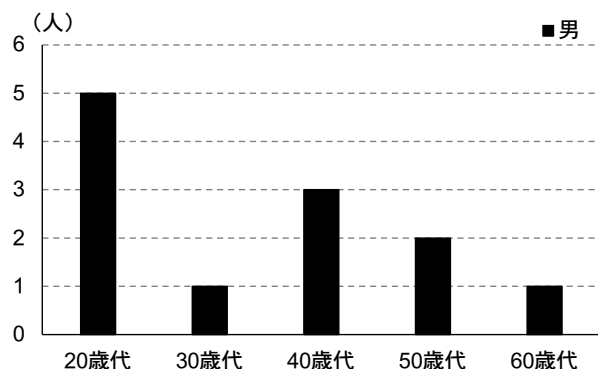


図15 後天性免疫不全症候群 年齢階級別発生状況

はAIDS 3例，無症候性キャリア9例であった。推定感染地域は，国内10例，国内又は国外（インドネシア）1例，不明1例であった。推定感染経路は性的接触10例（異性間2例，同性間8例），不明2例であった。

viii) ジアルジア症

ジアルジア症は1例の届出があり，50歳代の男性であった。推定感染地域は国外（インド）であった。

ix) 侵襲性インフルエンザ菌感染症

侵襲性インフルエンザ菌感染症は7例の届出があった。性別は男性5例，女性2例で，年齢階級別では50歳代・70歳代（各2例），0～9歳・20歳代・60歳代（各1例）であった。

x) 侵襲性肺炎球菌感染症

侵襲性肺炎球菌感染症は32例の届出があり，前年（35例）より減少した（図16）。性別は男性17例，女性15例で，年齢階級別では60歳代・70歳代（各9例）が最も多く，次いで0～9歳（6例），80歳代（4例）の順であった（図17）。ワクチン接種歴別は，接種歴あり8例，接種歴なし19例，不明5例であった。

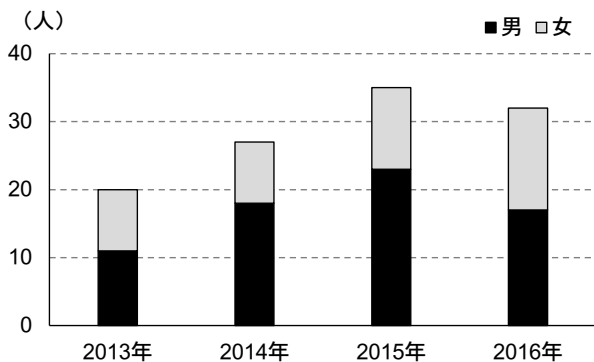


図16 侵襲性肺炎球菌感染症 年次別発生状況 (2013年から全数把握感染症に追加)

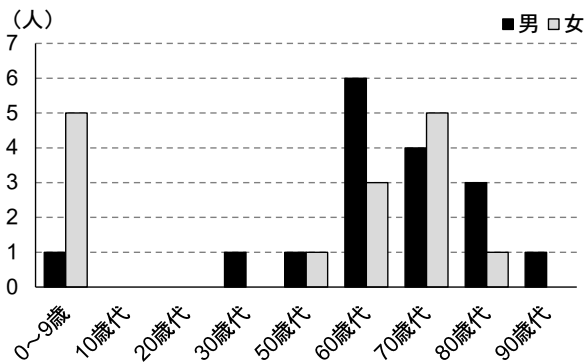


図17 侵襲性肺炎球菌感染症 年齢階級別発生状況

xi) 水痘（入院例に限る）

水痘（入院例に限る）は3例の届出があった。性別は男性2例，女性1例で，年齢階級別では，20歳代，30歳代，70歳代（各1例）であった。

xii) 梅毒

梅毒は40例の届出があった。過去5年間と比較して最も多く（図18），感染症法が施行された1999年以降で最も多くであった。病型は，早期顕症梅毒Ⅰ期15例，早期顕症梅毒Ⅱ期15例，晩期顕症梅毒1例，無症状病原体保有者9例であった。性別は男性31例，女性9例で，年齢階級別では，男性は30歳代（8例），20歳代（7例），40歳代・50歳代（各6例），女性は20歳代（5例），30歳代・40歳代（各2例）の順で多かった。（図19）。推定感染地域は国内 39例（県内16例，県外8例，都道府県不明15例），国外（タイ）1例であった。推定感染経路は，性的接触36例，不明4例であった。

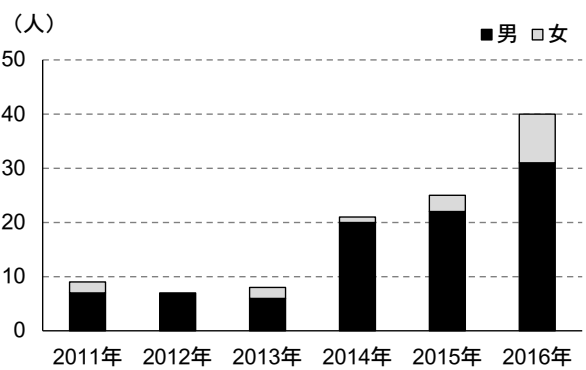


図18 梅毒 年次別発生状況

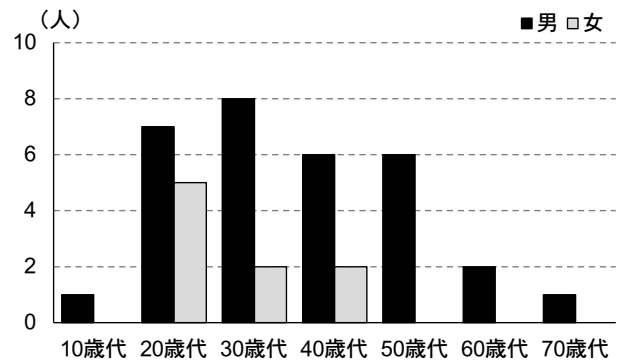


図19 梅毒 年齢階級別発生状況

xiii) 播種性クリプトコックス症

播種性クリプトコックス症は2例の届出があった。患者は50歳代の男性と80歳代の女性で，推定感染地域は，すべて国内（県内）であった。

xiv) 破傷風

破傷風は4例の届出があった。性別は男性2例，女性2例で，年齢階級別では，すべて70歳代の高齢者であった。推定感染地域は，全て国内（県内2例，県外2例）であった。ワクチン接種歴は，接種歴あり（受傷後に接種）1例，接種歴なし2例，不明1例であった。

xv) バンコマイシン耐性腸球菌感染症

バンコマイシン耐性腸球菌感染症は1例の届出があり、30歳代の女性であった。

## 3.2 定点把握感染症（五類感染症）の届出状況

### 3.2.1 小児科・内科定点における週報告の感染症（表4参照）

小児科・内科定点における週報告の感染症のうち、主な感染症については、以下のとおりである。

i) インフルエンザ（2015/2016年シーズン流行のまとめ）（図20）

2015/2016年シーズン（2015/8/31～2016/9/4）、岡山県の患者報告数は、22,726人であった。2015年 第38週（9/14～9/20）にシーズン初めての患者が報告され、第1週（1/4～1/10）には定点あたり報告数1.54人となり、過去5年間と比較して最も遅い流行シーズン入りとなった。その後、急速に流行は拡大し、2016年第6週（2/8～2/14）に定点あたり報告数33.88人となり、警報発令基準の30.00人を上回った。そして第9週（2/29～3/6）に定点あたり報告数37.19人となり、2015/2016シーズンのピークを迎えた。その後急速に減少し、第12週（3/21～3/27）、第13週（3/28～4/3）と2週連続して定点あたり10.00人を下回ったため、岡山県では警報から注意報に切り替えた。以降、徐々に減少し、第18週（5/2～5/8）、第19週（5/9～5/15）に2週連続して1.00人を下回り、インフルエンザの流行は終息した。全国と比べると、年間を通してほぼ同様に推移した。年齢階級別では、4～6歳が17%と最も高く、15歳未満の割合が全体の60%を占めた。

2015/2016年シーズンのうち、2015年8月31日～2016年5月29日までに岡山県環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは65株であった。その内訳は、B型33株（山形系統22株、ビクトリア系統11株）と最も多く、次いでAH3型20株、AH1pdm09型12株であった。2014/2015年シーズンは、AH3型が最も多く検出されたが、今シーズンは、複数のインフルエンザウイルスが同時期に検出された。

ii) RSウイルス感染症（図21）

RSウイルス感染症は、定点あたり累積報告数が23.35人であり、前年（23.31人）とほぼ同数であった。第1週（1/4～1/10）の患者が多い状態から減少傾向となり、第11週（3/14～3/20）からは散発的であった。第35週（8/29～9/4）から急速に増加しはじめ、第41週（10/10～10/16）には定点あたり報告数2.35人となり、過去5年間と比較して最も早いピークを迎えた。全国と比べると、年間を通してほぼ同様に推移した。年齢階級別では、1歳以下の割

合が全体の78%を占めた。

iii) 咽頭結膜熱（図22）

咽頭結膜熱は、定点あたり累積報告数が15.59人であり、前年（10.76人）より増加した。第14週（4/4～4/10）と第51週（12/19～12/25）で大きく増加したが、その後は減少し、全国と比べると低いレベルで推移した。年齢階級別では、1歳以下の割合が全体の40%を占めた。

iv) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（図23）

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、定点あたり累積報告数が51.70人であり、前年（59.39人）より減少した。全国と比べると、年間を通して低いレベルで推移した。年齢階級別では、4～5歳（26%）、6～7歳（20%）、2～3歳（16%）の順で、5歳以下の割合が全体の48%を占めた。

v) 感染性胃腸炎（図24）

感染性胃腸炎は、定点あたり累積報告数が378.48人であり、前年（344.67人）より増加した。第1週（1/4～1/10）からほぼ横ばいで推移していたが、第42週（10/17～10/23）から徐々に増加し、第50週（12/12～12/18）には定点あたり報告数20.15人となりピークを迎えた。全国と比べると、年間を通してほぼ同様に推移した。年齢階級別では、5歳以下の割合が全体の58%を占めた。

vi) 水痘（図25）

水痘は、定点あたり累積報告数が14.81人であり、前年（18.65人）より減少し、過去5年間と比較して最も少ない年であった。全国と比べると、年間を通してほぼ同様に推移した。年齢階級別では、5歳以下の割合が全体の65%を占めた。

vi) 手足口病（図26）

手足口病は、定点あたり累積報告数が17.78人であり、前年（89.26人）より減少し、大きな流行はみられなかった。全国と比べると、年間を通してほぼ同様に推移した。年齢階級別では、1歳以下の割合が全体の50%を占めた。

vii) 伝染性紅斑（図27）

伝染性紅斑は、定点あたり累積報告数が13.07人であり、前年（12.22人）より増加した。前年6月頃から患者が増加し始め、増減を繰り返しながら、患者が多い状態で2016年に入った。2016年第26週（6/27～7/3）には定点あたり報告数0.67人となり、過去5年間と比較して最も少なくなった。その後は減少傾向となり、低いレベルで推移した。全国と比べると、1～2月頃までは少ない報告数であったが、その後はほぼ同様に推移した。年齢階級別では、4～5歳（32%）、6～7歳（21%）、2～3歳（20%）の順であった。

viii) 突発性発疹（図28）

突発性発疹は、定点あたり累積報告数が19.07人であり、前年（19.48人）とほぼ同数であった。全国と比べると、ほぼ低いレベルで推移した。年齢階級別では、1歳以下の割合が全体の92%を占めた。

ix) 百日咳（図29）

百日咳は、定点あたり累積報告数が0.41人であり、前年（0.70人）より減少した。全国と比べると、低いレベルで推移した。年齢階級別では、乳児から成人まで幅広い年齢層で患者が報告された。

x) ヘルパンギーナ（図30）

ヘルパンギーナは、定点あたり累積報告数が31.48人であり、前年（24.59人）より増加した。第20週（5/16～5/22）から患者が増加し始め、その後、急激に増加した。第26週（6/27～7/3）には定点あたり報告数5.48人となり、2013年のピーク（5.52人）に次いで、高いピークを迎えた。

以降、急速に減少し、第29週（7/18～7/24）から緩やかに減少した。全国と比べると、同時期に患者が増加し始めたが、ピークの時期は全国より早かった。年齢階級別では、0～1歳（36%）、2～3歳（32%）、4～5歳（19%）の順であった。

xi) 流行性耳下腺炎（図31）

流行性耳下腺炎は、定点あたり累積報告数が56.50人であり、前年（27.20人）より増加した。前年12月から多い状態で2016年に入り、高いレベルで推移していたが、9月頃から減少傾向となった。全国と比べると、8月までは高いレベルで推移したが、第37週以降全国より少ない報告数となった。年齢階級別では、4～5歳（32%）、2～3歳・6～7歳（各20%）、8～9歳（11%）の順であり、幅広い年齢層で患者が報告された。

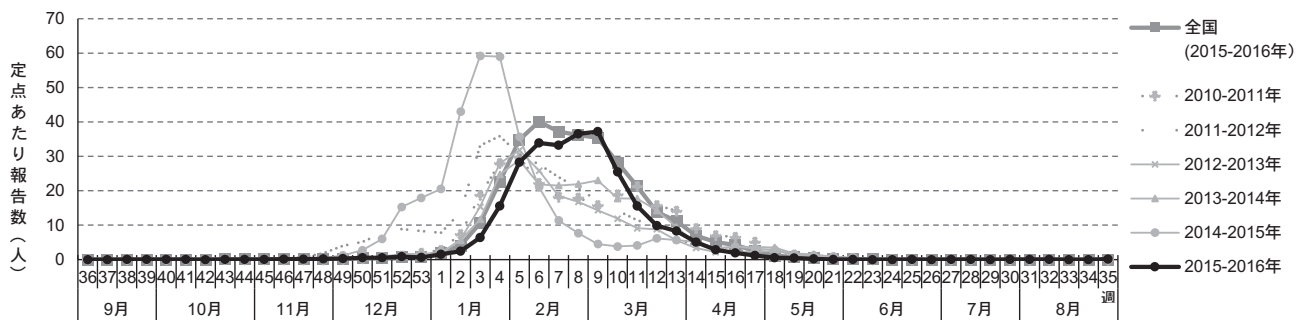


図20 インフルエンザ 発生状況

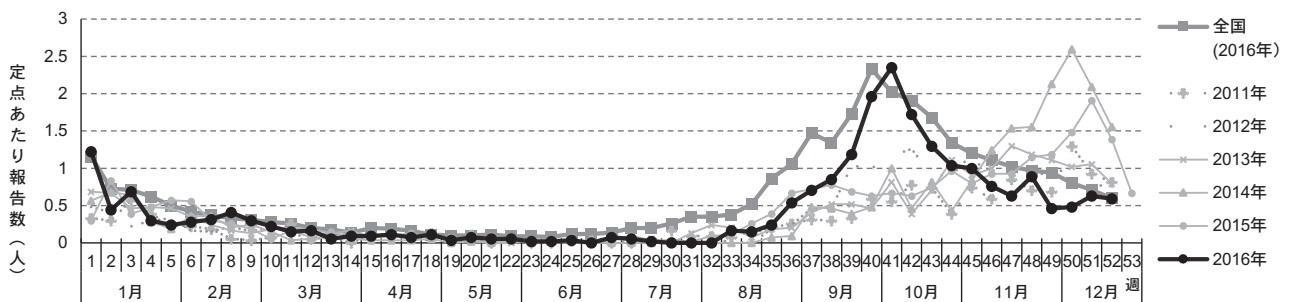


図21 RSウイルス感染症 発生状況

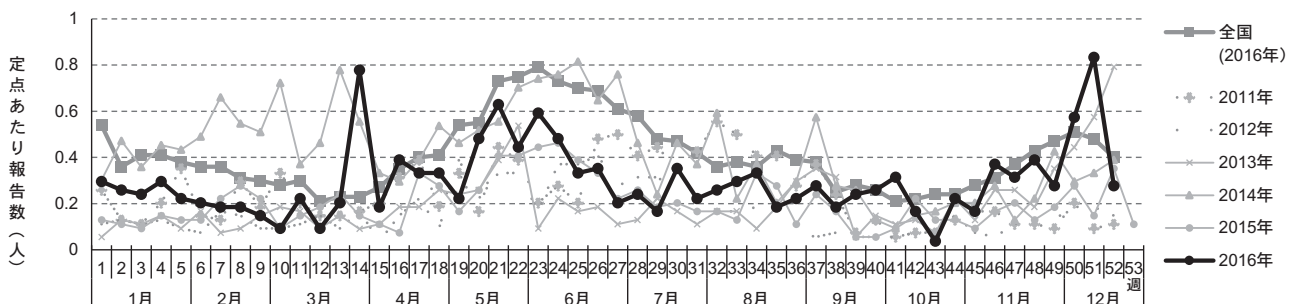


図22 咽頭結膜熱 発生状況

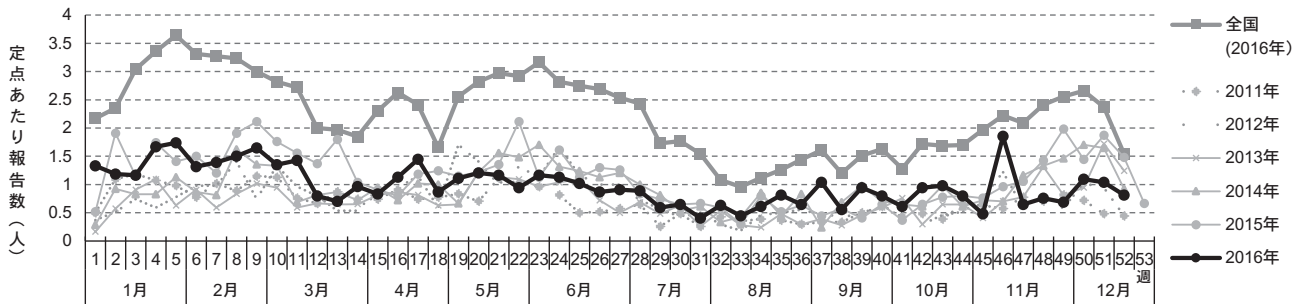


図23 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 発生状況

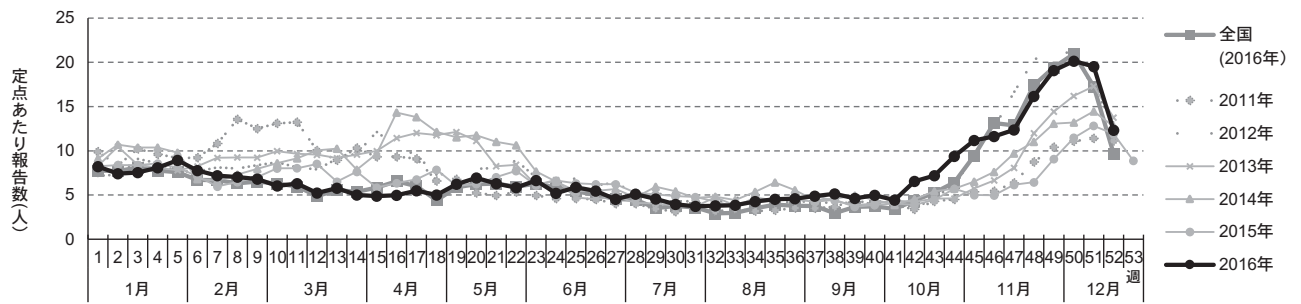


図24 感染性胃腸炎 発生状況

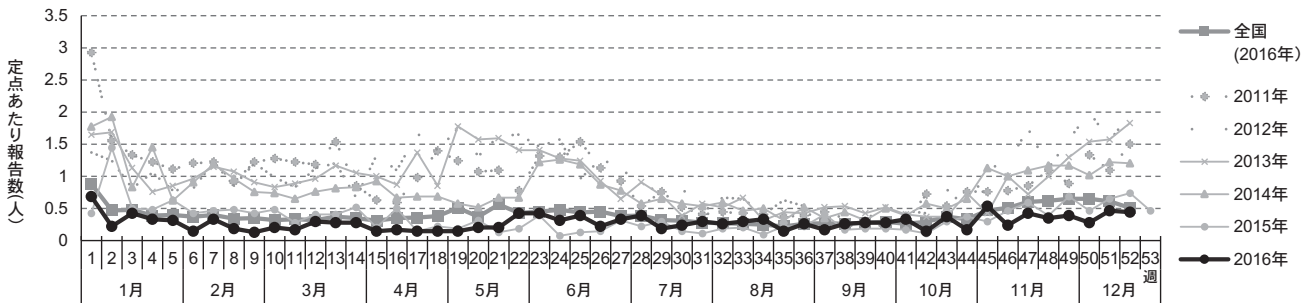


図25 水痘 発生状況

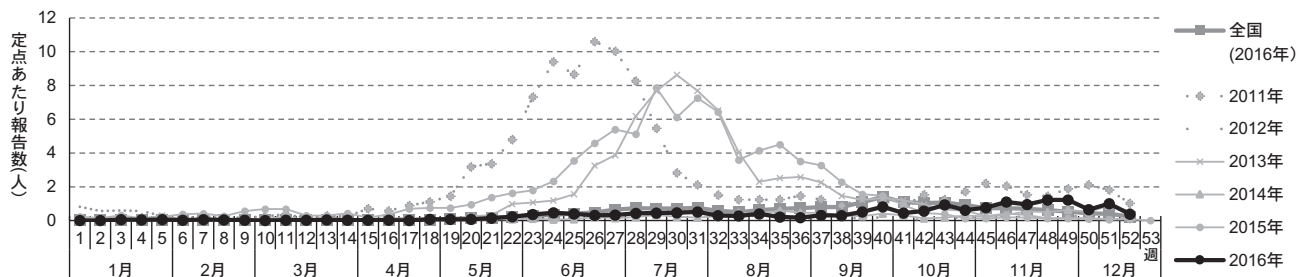


図26 手足口病 発生状況



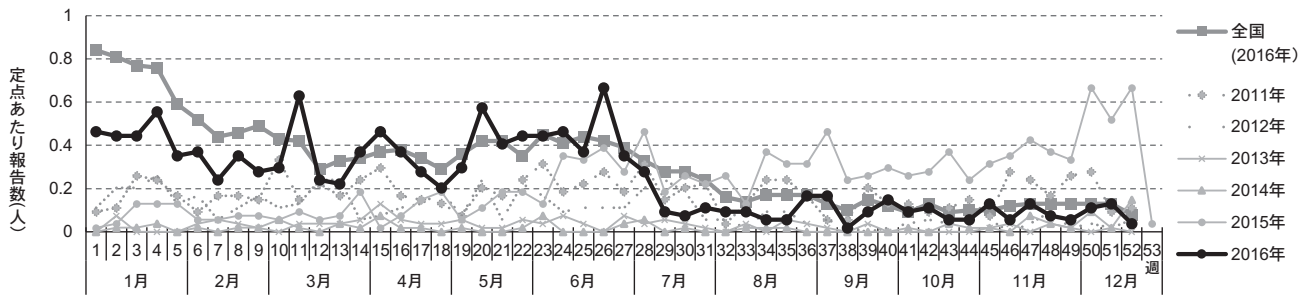


図27 伝染性紅斑 発生状況

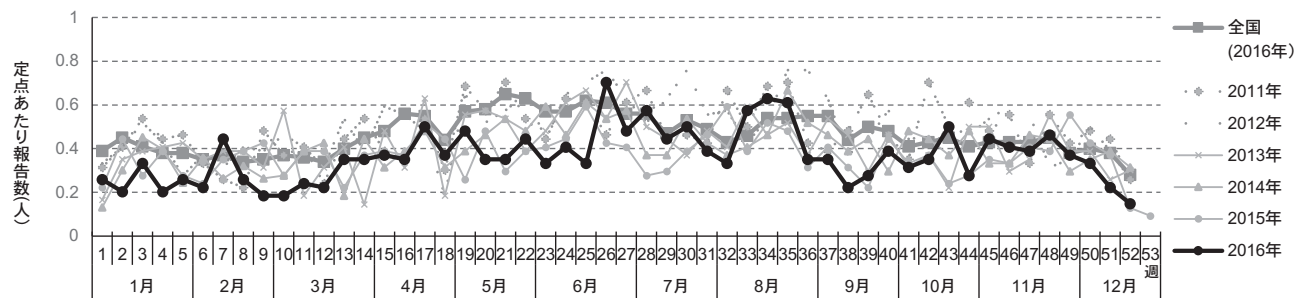


図28 突発性発疹 発生状況

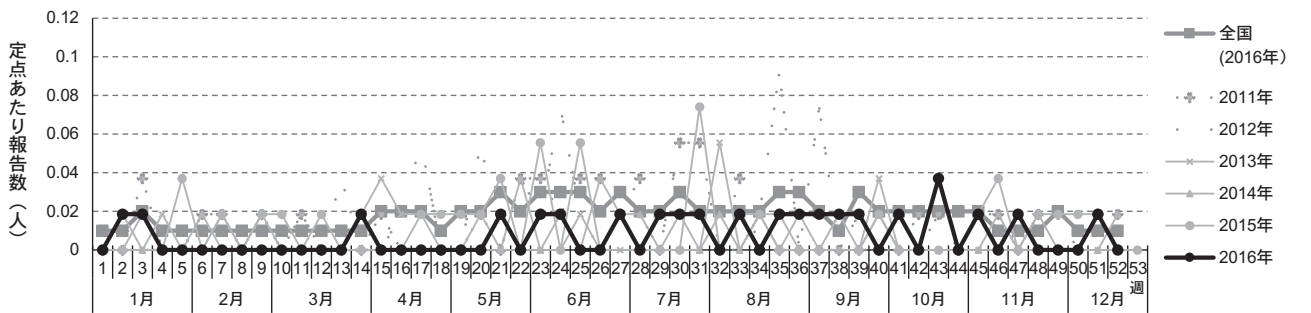


図29 百日咳 発生状況

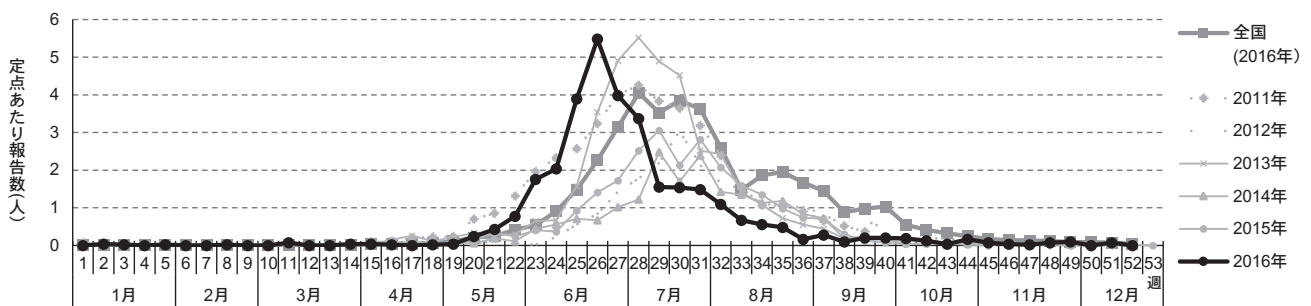


図30 ヘルパンギーナ 発生状況

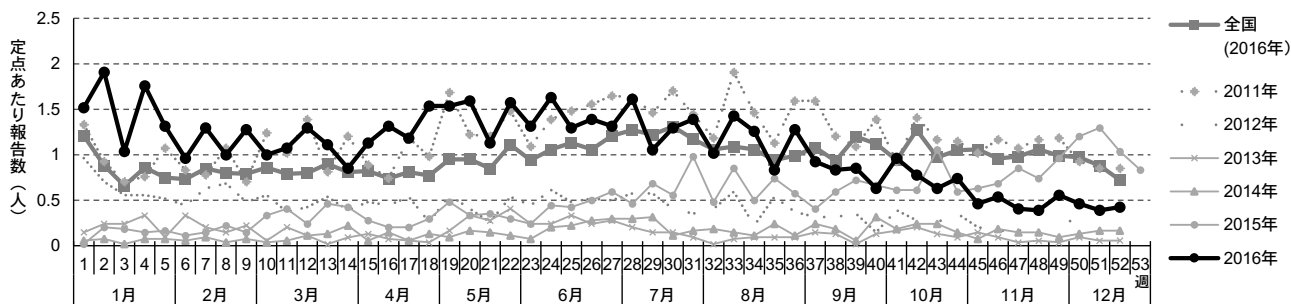


図31 流行性耳下腺炎 発生状況

### 3.2.2 眼科定点における週報告の感染症 (表4参照)

#### i) 急性出血性結膜炎

急性出血性結膜炎は、定点あたり累積報告数が0.58人であり、前年(0.58人)と同数であった。

#### ii) 流行性角結膜炎

流行性角結膜炎は、定点あたり累積報告数が17.17人であり、前年(24.75人)より減少した。

### 3.2.3 基幹定点における週報告の感染症 (表4参照)

#### i) 細菌性髄膜炎

細菌性髄膜炎は、定点あたり累積報告数が1.20人であり、前年(0.40人)より減少した。

#### ii) 無菌性髄膜炎

無菌性髄膜炎は、定点あたり累積報告数が3.80人であり、前年(1.80人)より増加した。

#### iii) マイコプラズマ肺炎

マイコプラズマ肺炎は、定点あたり累積報告数が14.40人であり、前年(5.40人)より大きく増加した。

#### iv) クラミジア肺炎(オウム病を除く)

クラミジア肺炎(オウム病を除く)は、定点あたり累積報告数が0.20人であり、前年(0.40人)より減少した。

#### v) 感染性胃腸炎(ロタウイルスによる)

感染性胃腸炎(ロタウイルスによる)は、定点あたり累積報告数が5.00人であり、前年(8.40人)より減少した。

### 3.2.4 性感染症定点における月報告の感染症 (表5, 6参照)

#### i) 性器クラミジア感染症

性器クラミジア感染症は、定点あたり累積報告数が18.18人であり、前年(22.18人)より減少しており、全国と比べても少ない報告数であった(図32)。性別では男性16%、女性84%で、女性の割合が高かった。年齢階級別では、10～50歳代で報告されており、20歳代が最も多かった(図33)。

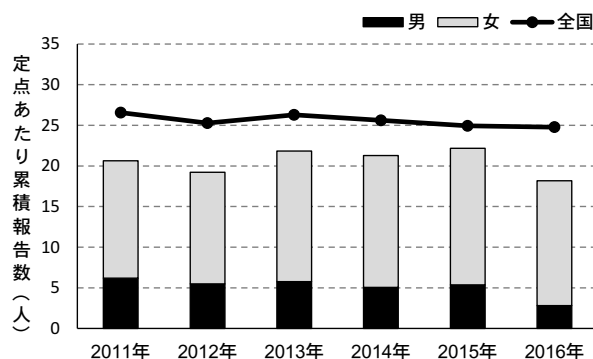


図32 性器クラミジア感染症 年次別発生状況

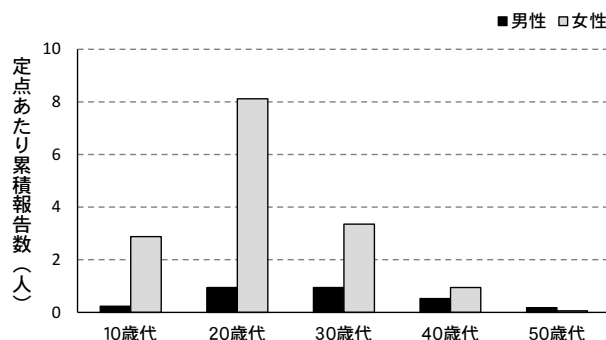


図33 性器クラミジア感染症 年齢階級別発生状況

#### ii) 性器ヘルペスウイルス感染症

性器ヘルペスウイルス感染症は、定点あたり累積報告

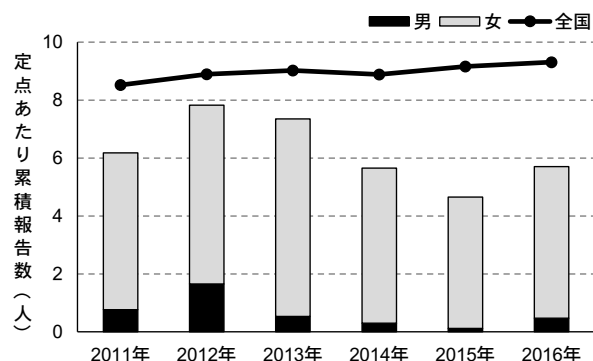


図34 性器ヘルペスウイルス感染症 年次別発生状況

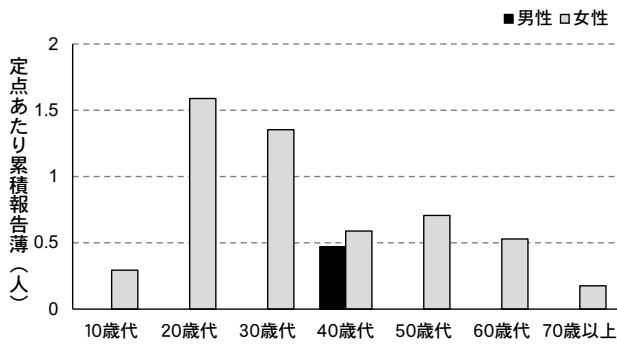


図35 性器ヘルペスウイルス感染症 年齢階級別発生状況

数が5.71人で、前年（4.65人）より増加したが、全国と比べると少ない報告数であった（図34）。性別では男性8%、女性92%で、女性の報告数が圧倒的に多かった。年齢階級別では、20歳代で最も多く、次いで30歳代、40歳代の順であった（図35）。

### iii) 尖圭コンジローマ感染症

尖圭コンジローマ感染症は、定点あたり累積報告数が5.24人で、前年（4.76人）より増加した。過去5年間で最も多かったが、全国と比べると少ない報告数であった（図36）。性別では男性80%、女性20%で、年々、男性の報告数が増加傾向にある。年齢階級別では、20～50歳代で多くなっていた（図37）。

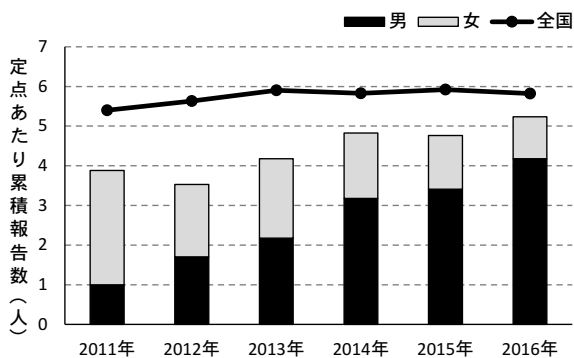


図36 尖圭コンジローマ感染症 年次別発生状況

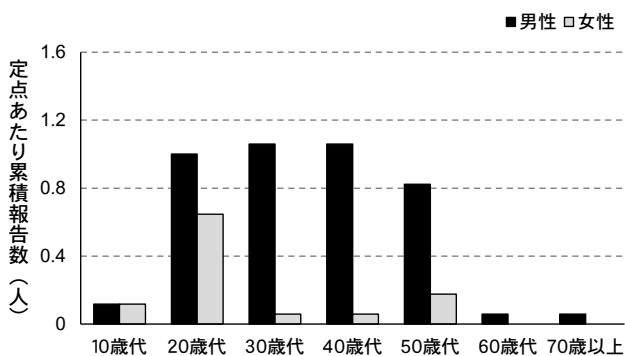


図37 尖圭コンジローマ感染症 年齢階級別発生状況

### iv) 淋菌感染症

淋菌感染症は、定点あたり累積報告数が4.29人であり、前年（6.00人）より減少した（図38）。2011年から減少傾向にあり、全国と比べても少ない報告数であった。性別は男性37%、女性63%で、女性の報告数がやや多かった。年齢階級別では、20～40歳代で多くなり、特に20歳代の女性の報告数が多かった（図39）。

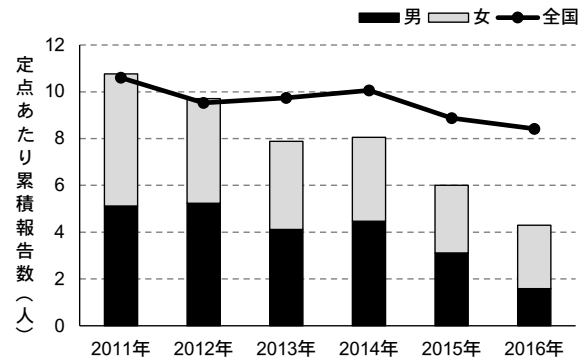


図38 淋菌感染症 年次別発生状況

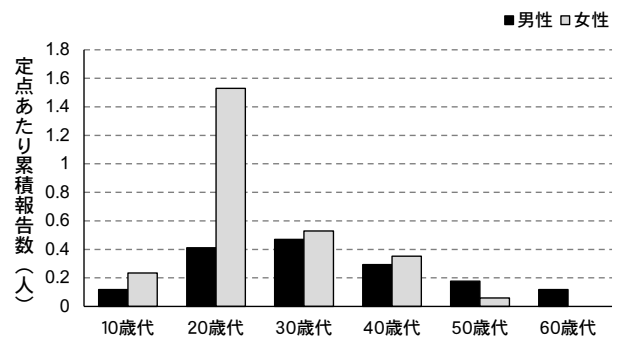


図39 淋菌感染症 年齢階級別発生状況

## 3.2.5 基幹定点における月報告の感染症（表5、7参照）

### i) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症は、定点あたり累積報告数が22.75人であり、前年（26.20人）より減少した。年齢階級別では、70歳以上の報告が最も多かった。

### ii) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症は、定点あたり累積報告数が0.75人であり、前年（0.20人）よりわずかに増加した。年齢階級別では、0～9歳と70歳以上であった。

### iii) 薬剤耐性緑膿菌感染症

薬剤耐性緑膿菌感染症は、定点あたり累積報告数は0.75人であり、前年（1.40人）より減少した。年齢階級別では、50歳代と70歳以上で報告された。

#### 4 まとめ

全数把握感染症のうち、結核の届出数は311例であり、2011年以降減少傾向にあるが、依然として300例以上の届出があった。年齢階級別では、60歳以上の高齢者が全体の70%を占めていた。重症熱性血小板減少症候群は1例の届出があり、2013年2例、2014年2例に続いて5例目の発生となった。10月には3年ぶりに日本脳炎の患者発生があった。推定感染地域は県内で、ワクチン接種歴はなかった。梅毒の届出数は40例であり、感染症法が施行された1999年以降最も多くなった。全国の梅毒患者の届出数が2010年以降増加傾向にあり、岡山県でも2014年以降年々増加しているため、今後の発生動向に十分注意する必要がある。

定点把握感染症に関して、2015/2016年シーズンのインフルエンザは、過去5年間で最も遅い流行シーズン入りとなり、流行期間が19週間と前年に比べて短かった。前年より4週間遅くピークを迎えた後、急速に減少し、インフルエンザの流行は終息した。RSウイルス感染症は、過去5年間と比較して患者発生の最も多い年であった。8月頃から患者が増加し始め、例年よりも早い時期にピークを迎えた。ヘルパンギーナは、5月から患者が増加し始め、6月には2013年に次いで高いピークを迎えた。

今後も引き続き、県内における感染症情報の収集・分析を迅速に行い、全国の感染症発生動向にも注意を払いながら、感染症対策の一助となるよう広く情報発信をしていきたい。

表1 感染症法に基づく届出対象感染症(2016年)

1. 全数把握感染症:全ての医師が、全ての患者発生について届出を行う感染症

<p>【 一類感染症 】 直ちに届出</p> <p>(1) エボラ出血熱 (2) クリミア・コンゴ出血熱 (3) 痘そう (4) 南米出血熱 (5) ペスト (6) マールブルグ病 (7) ラッサ熱</p>
<p>【 二類感染症 】 直ちに届出</p> <p>(1) 急性灰白髄炎 (2) 結核 (3) ジフテリア (4) 重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る)</p> <p>(5) 鳥インフルエンザ(H5N1) (6) 鳥インフルエンザ(H7N9) (7) 中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る)</p>
<p>【 三類感染症 】 直ちに届出</p> <p>(1)コレラ (2)細菌性赤痢 (3)腸管出血性大腸菌感染症 (4)腸チフス (5)パラチフス</p>
<p>【 四類感染症 】 直ちに届出</p> <p>(1) E 型肝炎 (2) ウエストナイル熱 (3) A 型肝炎 (4) エキノコックス症 (5) 黄熱 (6) オウム病 (7) オムスク出血熱 (8) 回帰熱 (9) キャサナル森林病 (10) Q 熱 (11) 狂犬病 (12) コクシジオイデス症 (13) サル痘 (14) ジカウイルス感染症 * (15) 重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属 SFTS ウイルスであるものに限る) (16) 腎症候性出血熱 (17) 西部ウマ脳炎 (18) ダニ媒介脳炎 (19) 炭疽</p> <p>(20) チクングニア熱 (21) つつが虫病 (22) デング熱 (23) 東部ウマ脳炎 (24) 鳥インフルエンザ(H5N1 及び H7N9 を除く) (25) ニパウイルス感染症 (26) 日本紅斑熱 (27) 日本脳炎 (28) ハンタウイルス肺炎候群 (29) B ウイルス病 (30) 鼻疽 (31) ブルセラ症 (32) ベネズエラウマ脳炎 (33) ヘンドラウイルス感染症 (34) 発しんチフス (35) ボツリヌス症 (36) マラリア (37) 野兔病 (38) ライム病 (39) リッサウイルス感染症 (40) リフトバレー熱 (41) 類鼻疽 (42) レジオネラ症 (43) レプトスピラ症 (44) ロッキー山麻斑熱</p>
<p>【 五類感染症の一部 】 7 日以内に届出(麻しんは直ちに・風しんはできるだけ早く)</p> <p>(1) アメーバ赤痢 (2) ウイルス性肝炎(E 型肝炎及び A 型肝炎を除く) (3) カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 (4) 急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く) (5) クリプトスポリジウム症 (6) クロイツフェルト・ヤコブ病 (7) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 (8) 後天性免疫不全症候群 (9) ジアルジア症 (10) 侵襲性インフルエンザ菌感染症 (11) 侵襲性髄膜炎菌感染症 (12) 侵襲性肺炎球菌感染症 (13) 水痘(入院例に限る) (14) 先天性風しん症候群 (15) 梅毒 (16) 播種性クリプトコックス症 (17) 破傷風 (18) パイコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症 (19) バンコマイシン耐性腸球菌感染症 (20) 風しん (21) 麻しん (22) 薬剤耐性アシネトバクター感染症</p>
<p>【 指定感染症 】 直ちに届出</p> <p>該当なし</p>

2. 定点把握感染症(五類感染症):指定した医療機関が、患者の発生について届出を行う感染症

①週単位報告

<p>【 小児科定点 】</p> <p>(1) RSウイルス感染症 (2) 咽頭結膜熱 (3) A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (4) 感染性胃腸炎 (5) 水痘 (6) 手足口病 (7) 伝染性紅斑 (8) 突発性発しん (9) 百日咳 (10) ヘルパンギーナ (11) 流行性耳下腺炎</p>
<p>【 インフルエンザ定点 】</p> <p>(1)インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く)</p>
<p>【 眼科定点 】</p> <p>(1)急性出血性結膜炎 (2)流行性角結膜炎</p>
<p>【 基幹定点 】</p> <p>(1)感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る) (2) クラミジア肺炎(オウム病を除く) (3) 細菌性髄膜炎(髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く) (4) マイコプラズマ肺炎 (5) 無菌性髄膜炎</p>

②月単位報告

<p>【 性感染症定点 】</p> <p>(1)性器クラミジア感染症 (2)性器ヘルペスウイルス感染症 (3)尖圭コンジローマ (4)淋菌感染症</p>
<p>【 基幹定点 】</p> <p>(1)ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 (2) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 (3) 薬剤耐性緑膿菌感染症</p>

\* 2016年2月15日より追加

表2 全数把握感染症 月別患者発生状況

2016年

		総数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
一類感染症	エボラ出血熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	マールブルグ病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
二類感染症	急性灰白髄炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	311	29	26	21	23	21	28	29	27	35	22	26	24
	中東呼吸器症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三類感染症	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	細菌性赤痢	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	腸管出血性大腸菌感染症	65	1	1	-	5	2	3	5	12	19	10	6	1
	腸チフス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
四類感染症	E型肝炎	2	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
	ウエストナイル熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	A型肝炎	3	1	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-
	エキソコックス症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	黄熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	オウムムスク出血熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	回帰熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	キヤサヌル森林病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	Q熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	狂犬病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	コキシジオリデス症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	サカウイルス感染症*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	重症熱性血小板減少症候群	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
	腎症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	西部ウマ脳炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ダニ媒介脳炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	炭疽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	チクングニア熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	チフス	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
	デング熱	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
	東部ウマ脳炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(鳥インフルエンザ(H5N1)を除く)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ニバウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	日本紅斑熱	5	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-
	日本脳炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
	Bウイルス病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	鼻疽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ブルセラ病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ペネズエラ脳炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ボツリヌス症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マラリア	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
野兔病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ラッサウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
リフトバレー熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
類鼻疽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
レジオネラ症	27	5	1	1	4	3	4	2	-	1	2	4	-	
レプトスピラ症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ロッキーマウンテン紅斑熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
五類感染症	アムール赤痢	18	-	-	2	1	4	-	3	5	2	-	-	1
	ウイルス性肝炎(E・Aを除く)	4	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	1	-
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	28	1	4	1	3	2	4	2	1	2	5	1	2
	急性脳炎*	11	3	-	-	2	2	-	1	-	1	-	1	1
	クリプトスポリジウム症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	クロイツフェルト・ヤコブ病	3	1	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	7	-	1	1	1	1	1	1	-	-	1	-	-
	後天性免疫不全症候群	12	-	1	-	1	2	2	2	-	1	-	2	1
	ジアルジア症	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	7	1	-	-	1	-	2	1	-	1	-	-	1
	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	侵襲性肺炎球菌感染症	32	2	3	6	3	2	2	-	2	2	3	4	3
	水痘(入院例)	3	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	1
	先天性風しん症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	梅毒	40	2	3	3	2	5	1	2	7	6	3	2	4
	播種性クリプトコックス症	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
破傷	4	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	2	-	
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
風しん	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
麻疹	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

\*<sup>1</sup> 2016年2月15日より、ジカウイルス感染症が全数把握感染症に追加。

\*<sup>2</sup> ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎日本脳炎、ペネズエラ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

表3 全数把握感染症 年齢別患者発生状況

2016年

		総数	0~9歳	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳~
一類感染症	エボラ出血熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	痘苗	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ペーパー	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	マールブルグ病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
二類感染症	急性灰白髄炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ジフテリア	311	7	3	31	20	15	16	45	60	90	24
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中東呼吸器症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三類感染症	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	コレラ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	細菌性赤痢	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	腸管出血性大腸菌感染症	65	9	6	13	8	10	8	9	1	1	-
	腸チフス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
四類感染症	パルチフス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	E型肝炎	2	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-
	ウエストナイル熱	3	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-
	A型肝炎	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	エキノкокク	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	オウム	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	オムスク	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	回帰熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	キヤサスル	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	Q熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	狂犬病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	コクシジオイデス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	サル	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ジカウイルス感染症*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	重症熱性血小板減少症候群	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	腎症候性出血熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	西部ウマ脳炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ダニ媒介脳炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	炭疽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	チングニア	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	つが虫	2	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-
	デング	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
	東部ウマ脳炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(鳥インフルエンザ(H5N1)を除く)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ニパウイルス感染症	5	-	-	-	-	-	-	1	1	2	1
日本脳炎	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
B型肝炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
鼻疽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ブルセラ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
発しんチフス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ボツリヌス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マラリア	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
野兔病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ラッサウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
リフトバレー熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
類鼻疽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
レジオネラ	27	-	-	-	-	-	1	2	6	9	7	
レプトスピラ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ロッキースト山紅斑熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
五類感染症	アメーバ赤痢	18	-	-	-	2	3	5	6	2	-	-
	ウイルス性肝炎(E・Aを除く)	4	-	-	-	1	-	2	1	-	-	-
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	28	-	-	-	-	1	-	5	15	5	2
	急性脳炎*	11	4	1	-	-	1	-	4	-	1	-
	クリプトスポリジウム症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	クロイツフェルト・ヤコブ病	3	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	7	-	-	-	-	1	1	1	2	2	-
	後天性免疫不全症候群	12	-	-	5	1	3	2	1	-	-	-
	ジアルジア	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	7	1	-	1	-	-	2	1	2	-	-
	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	侵襲性肺炎球菌感染症	32	6	-	-	1	-	2	9	9	4	1
	水痘(入院例)	3	-	-	1	1	-	-	-	1	-	-
	先天性風しん症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	梅毒	40	-	1	12	10	8	6	2	1	-	-
播種性クリプトコックス	2	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	
破傷風	破傷風	4	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
	風しん	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	麻疹	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

\*1 2016年2月15日より、ジカウイルス感染症が全数把握感染症に追加。

\*2 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

表4 定点把握対象感染症の発生状況

定点あたり報告数、週別(小児科定点, インフルエンザ(小児科・内科)定点, 眼科定点, 基幹定点)

2016年

	インフルエンザ	R Sウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス) 感染性胃腸炎
総数	288.35	23.35	15.59	51.70	378.48	14.81	17.78	13.07	19.07	0.41	31.48	56.50	0.58	17.17	1.20	3.80	14.60	0.20	5.00
1週	1.54	1.22	0.30	1.33	8.22	0.69	—	0.46	0.26	—	—	1.52	—	1.50	—	—	0.20	—	0.20
2週	2.48	0.44	0.26	1.19	7.41	0.22	—	0.44	0.20	0.02	0.04	1.91	—	0.58	—	—	1.00	—	0.20
3週	6.37	0.69	0.24	1.17	7.54	0.43	0.06	0.44	0.33	0.02	0.02	1.04	—	0.50	—	0.4	—	—	—
4週	15.56	0.30	0.30	1.67	8.09	0.33	0.04	0.56	0.20	—	—	1.76	—	0.50	—	—	—	—	—
5週	28.32	0.24	0.22	1.74	8.93	0.31	0.06	0.35	0.26	—	0.02	1.31	—	0.58	—	—	0.40	—	1.80
6週	33.88	0.28	0.20	1.31	7.76	0.15	0.02	0.37	0.22	—	—	0.96	0.17	0.83	—	—	0.40	—	0.80
7週	33.25	0.31	0.19	1.39	7.19	0.33	0.06	0.24	0.44	—	—	1.30	—	1.08	0.20	—	0.40	—	—
8週	36.54	0.41	0.19	1.50	7.04	0.19	0.04	0.35	0.26	—	0.02	1.00	—	0.25	0.00	0.2	0.40	—	—
9週	37.19	0.30	0.15	1.65	6.80	0.13	0.02	0.28	0.19	—	—	1.28	—	0.17	0.40	—	0.20	—	0.20
10週	25.49	0.22	0.09	1.35	6.02	0.20	—	0.30	0.19	—	—	1.00	—	0.42	—	—	0.20	—	—
11週	15.56	0.15	0.22	1.43	6.28	0.17	0.02	0.63	0.24	—	0.07	1.07	—	0.42	—	—	—	—	—
12週	9.89	0.17	0.09	0.80	5.24	0.30	0.02	0.24	0.22	—	—	1.30	—	0.08	—	—	0.40	—	—
13週	8.30	0.06	0.20	0.70	5.78	0.28	0.04	0.22	0.35	—	—	1.11	0.08	0.25	—	—	0.40	—	0.20
14週	5.08	0.09	0.78	0.96	5.00	0.28	0.02	0.37	0.35	0.02	0.04	0.85	—	0.25	—	—	—	—	0.20
15週	2.86	0.09	0.19	0.83	4.89	0.15	0.02	0.46	0.37	—	0.04	1.13	—	0.17	—	—	0.20	—	0.40
16週	1.92	0.11	0.39	1.13	4.96	0.17	0.02	0.37	0.35	—	0.02	1.31	—	0.42	—	—	—	—	0.40
17週	1.18	0.07	0.33	1.44	5.48	0.15	—	0.28	0.50	—	—	1.19	0.08	0.08	—	—	—	—	0.20
18週	0.55	0.11	0.33	0.87	5.00	0.15	0.07	0.20	0.37	—	0.02	1.54	—	0.25	—	—	—	—	0.20
19週	0.46	0.04	0.22	1.11	6.22	0.15	0.07	0.30	0.48	—	0.04	1.54	—	0.33	—	0.8	0.20	—	—
20週	0.25	0.07	0.48	1.20	6.94	0.20	0.07	0.57	0.35	—	0.24	1.59	—	0.25	—	—	0.20	—	—
21週	0.07	0.06	0.63	1.17	6.28	0.20	0.15	0.41	0.35	0.02	0.43	1.13	—	0.42	—	—	0.20	—	—
22週	0.02	0.06	0.44	0.94	5.85	0.43	0.22	0.44	0.44	—	0.78	1.57	—	—	0.20	—	—	—	0.20
23週	—	0.02	0.59	1.17	6.65	0.43	0.35	0.44	0.33	0.02	1.76	1.31	—	0.17	—	—	0.20	—	—
24週	—	0.02	0.48	1.13	5.19	0.31	0.46	0.46	0.41	0.02	2.04	1.63	—	0.17	0.20	—	—	—	—
25週	0.01	0.04	0.33	1.02	5.87	0.39	0.39	0.37	0.33	—	3.89	1.30	—	0.17	—	—	0.40	—	—
26週	—	—	0.35	0.87	5.46	0.22	0.31	0.67	0.70	—	5.48	1.39	—	0.08	—	0.2	—	—	—
27週	0.01	0.07	0.20	0.91	4.54	0.33	0.33	0.35	0.48	0.02	3.98	1.31	—	—	—	—	—	—	—
28週	0.01	0.06	0.24	0.89	5.11	0.39	0.43	0.28	0.57	—	3.37	1.61	—	—	—	0.2	0.20	—	—
29週	—	0.02	0.17	0.59	4.56	0.19	0.44	0.09	0.44	0.02	1.56	1.06	—	0.25	—	—	0.20	—	—
30週	0.01	—	0.35	0.65	3.94	0.24	0.46	0.07	0.50	0.02	1.54	1.30	—	0.08	—	—	0.20	—	—
31週	0.01	—	0.22	0.41	3.72	0.30	0.52	0.11	0.39	0.02	1.48	1.39	—	0.08	—	—	0.40	—	—
32週	0.01	—	0.26	0.63	3.78	0.26	0.30	0.09	0.33	—	1.09	1.02	—	0.08	—	—	—	—	—
33週	—	0.17	0.30	0.44	3.85	0.30	0.28	0.09	0.57	0.02	0.67	1.43	—	—	—	—	0.60	—	—
34週	—	0.15	0.33	0.61	4.26	0.33	0.39	0.06	0.63	—	0.56	1.26	0.08	0.17	—	—	—	—	—
35週	0.13	0.24	0.19	0.81	4.52	0.15	0.20	0.06	0.61	0.02	0.48	0.83	0.08	0.08	—	0.8	0.80	—	—
36週	0.04	0.54	0.22	0.65	4.59	0.26	0.17	0.17	0.35	0.02	0.17	1.28	—	0.08	—	—	0.20	—	—
37週	0.05	0.70	0.28	1.04	4.89	0.17	0.31	0.17	0.35	0.02	0.28	0.93	0.08	0.50	—	—	—	—	—
38週	0.06	0.85	0.19	0.56	5.13	0.26	0.30	0.02	0.22	0.02	0.09	0.83	—	0.42	—	—	—	—	—
39週	0.01	1.19	0.24	0.94	4.61	0.28	0.52	0.09	0.28	0.02	0.20	0.85	—	0.42	—	—	0.40	—	—
40週	0.01	1.96	0.26	0.80	4.96	0.28	0.81	0.15	0.39	—	0.20	0.63	—	0.83	—	0.2	0.80	0.20	—
41週	0.05	2.35	0.31	0.61	4.43	0.33	0.44	0.09	0.31	0.02	0.19	0.96	—	0.75	—	—	—	—	—
42週	0.01	1.72	0.17	0.94	6.54	0.15	0.56	0.11	0.35	0.00	0.13	0.78	—	0.08	—	—	0.40	—	—
43週	0.11	1.30	0.04	0.98	7.20	0.37	0.93	0.06	0.50	0.04	0.04	0.63	—	0.33	—	0.4	0.80	—	—
44週	0.15	1.04	0.22	0.80	9.39	0.17	0.61	0.06	0.28	—	0.17	0.74	—	0.25	—	—	0.20	—	—
45週	0.30	1.00	0.17	0.48	11.19	0.54	0.76	0.13	0.44	0.02	0.07	0.46	—	0.08	—	—	—	—	—
46週	0.74	0.76	0.37	1.85	11.63	0.24	1.09	0.06	0.41	—	0.04	0.54	—	0.42	—	0.2	1.20	—	—
47週	2.24	0.63	0.31	0.65	12.35	0.43	0.94	0.13	0.39	0.02	0.02	0.41	—	0.33	0.20	—	0.20	—	—
48週	1.45	0.89	0.39	0.76	16.17	0.35	1.22	0.07	0.46	—	0.07	0.39	—	0.42	—	—	0.20	—	—
49週	1.63	0.46	0.28	0.69	19.07	0.39	1.22	0.06	0.37	—	0.09	0.56	—	0.75	—	—	0.40	—	—
50週	2.57	0.48	0.57	1.09	20.15	0.28	0.65	0.11	0.33	—	0.00	0.46	—	0.33	—	0.2	1.00	—	—
51週	5.35	0.63	0.83	1.04	19.52	0.46	1.00	0.13	0.22	0.02	0.07	0.39	—	0.42	—	0.2	0.40	—	—
52週	6.63	0.59	0.28	0.81	12.31	0.44	0.37	0.04	0.15	—	—	0.43	—	0.08	—	—	0.60	—	—



表5 月報告 定点把握感染症（性感染症定点，基幹定点） 月別，定点あたり報告数

2016年

疾患名		総計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
性感染症定点	性器クラミジア感染症	計	18.18	1.12	1.41	1.06	1.06	1.76	2.35	1.71	1.65	1.24	2.12	1.41	1.29
		男	2.82	0.29	0.35	0.12	0.12	0.18	0.18	0.29	0.29	0.47	0.29	0.06	0.18
		女	15.35	0.82	1.06	0.94	0.94	1.59	2.18	1.41	1.35	0.76	1.82	1.35	1.12
	性器ヘルペスウイルス感染症	計	5.71	0.18	0.41	0.53	0.59	0.53	0.65	0.47	0.65	0.53	0.18	0.35	0.65
		男	0.47	—	0.06	0.06	0.06	0.06	0.06	—	0.06	0.06	—	0.06	—
		女	5.24	0.18	0.35	0.47	0.53	0.47	0.59	0.47	0.59	0.47	0.18	0.29	0.65
	尖圭コンジローマ	計	5.24	0.47	0.41	0.59	0.41	0.35	0.41	0.35	0.53	0.47	0.41	0.47	0.35
		男	4.18	0.41	0.35	0.41	0.24	0.29	0.35	0.35	0.35	0.41	0.29	0.41	0.29
		女	1.06	0.06	0.06	0.18	0.18	0.06	0.06	—	0.18	0.06	0.12	0.06	0.06
	淋菌感染症	計	4.29	0.29	0.47	0.47	0.24	0.18	0.35	0.18	0.35	0.41	0.65	0.47	0.24
		男	1.59	0.06	0.24	0.12	0.18	0.06	0.12	—	0.12	0.24	0.18	0.24	0.06
		女	2.71	0.24	0.24	0.35	0.06	0.12	0.24	0.18	0.24	0.18	0.47	0.24	0.18
基幹定点	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	計	22.75 <sup>**</sup>	2.00	0.80	2.20	1.00 <sup>**</sup>	3.20	1.40	1.40	1.00	0.80	1.40	1.40	1.80
		男	13.75 <sup>**</sup>	1.00	0.80	1.00	1.00 <sup>**</sup>	2.00	1.20	1.20	0.40	0.20	0.80	0.80	0.80
		女	9.00 <sup>**</sup>	1.00	0.00	1.20	—	1.20	0.20	0.20	0.60	0.60	0.60	0.60	1.00
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	計	0.75 <sup>**</sup>	—	0.20	—	—	—	—	0.40	—	—	—	—	—
		男	0.25 <sup>**</sup>	—	—	—	—	—	—	0.20	—	—	—	—	—
		女	0.50 <sup>**</sup>	—	0.20	—	—	—	—	0.20	—	—	—	—	—
	薬剤耐性緑膿菌感染症	計	0.75 <sup>**</sup>	0.20	—	—	—	—	—	—	0.20	0.20	—	—	—
		男	0.75 <sup>**</sup>	0.20	—	—	—	—	—	—	0.20	0.20	—	—	—
		女	0.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

※定点数4で集計

表6 月報告 定点把握感染症（性感染症定点） 年齢階級別患者報告数

2016年

疾患名		0歳	1歳～	5歳～	10歳～	15歳～	20歳～	25歳～	30歳～	35歳～	40歳～	45歳～	50歳～	55歳～	60歳～	65歳～	70歳～	総計
性器クラミジア感染症	計	—	—	—	2	51	84	70	43	30	17	8	4	—	—	—	—	309
	男	—	—	—	1	3	8	8	9	7	6	3	3	—	—	—	—	48
	女	—	—	—	1	48	76	62	34	23	11	5	1	—	—	—	—	261
性器ヘルペスウイルス感染症	計	—	—	—	—	5	16	11	14	9	14	4	5	7	6	3	3	97
	男	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8	—	—	—	—	—	—	8
	女	—	—	—	—	5	16	11	14	9	6	4	5	7	6	3	3	89
尖圭コンジローマ	計	—	—	—	—	4	19	9	16	3	4	15	9	8	—	1	1	89
	男	—	—	—	—	2	13	4	16	2	3	15	6	8	—	1	1	71
	女	—	—	—	—	2	6	5	—	1	1	—	3	—	—	—	—	18
淋菌感染症	計	—	—	—	1	5	17	16	9	8	6	5	4	—	2	—	—	73
	男	—	—	—	1	1	4	3	4	4	3	2	3	—	2	—	—	27
	女	—	—	—	—	4	13	13	5	4	3	3	1	—	—	—	—	46

表7 月報告 定点把握感染症（基幹定点） 年齢階級別患者報告数

2016年

疾患名	0歳	1歳～	5歳～	10歳～	15歳～	20歳～	25歳～	30歳～	35歳～	40歳～	45歳～	50歳～	55歳～	60歳～	65歳～	70歳～	総計
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	—	—	1	1	1	1	—	1	1	5	3	4	7	3	9	54	91
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	3
薬剤耐性緑膿菌感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	2	3